

保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ

(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

キャリアステージ		フレッシュ	ミドル	ミドルリーダー	リーダー	園長	
身に付けたい資質・能							
子どもを愛し、 護り育てる力	子どもの人権	子どもの人権と権利を尊重することの重要性を知り、意識して行動する	多様な子どもを受容し人権と権利を尊重することについて、同僚に具体的に示す	園や地域の人権に関する課題に取り組み、子どもの人権と権利を尊重する精神を家庭や地域に広める			A 愛されて育つ子ども
	愛されていると感じられる保育	子どもに温かな関心を寄せるとともに、子どもの思いを受けとめ、信頼関係を築く	人間観・子ども観を深めるとともに、子どもがその子らしく安心して生活するための環境やかかわりについて省察する	愛情深い保育をすることの意義を周囲に伝えながら、保育者が子どもたちと信頼関係を築き、愛情を注ぐ姿を支える			
	健康的な園生活	子どもの健康について知り、健康に配慮したかわりや状況に応じた行動をする	健康の重要性を理解し、実践するとともに、必要な情報を積極的に発信する	子どもの健康に関する専門的な知識や最新の情報を収集し、学校保健計画を作成する。子どもの健康について保育者や保護者に正しく伝えたり、健康的な園生活を営むための体制を整えたりする			
	安全な園生活	安全教育・防災教育について知り、安全に配慮した環境を整えたり、状況に応じて行動したりする	園全体の危機管理についての意識を高め、危険を予測して行動したり、園の環境の安全を点検したりし、課題について適切に対応する	災害や想定外の事態の発生に備え、学校安全計画を整備し、園内の体制を確立する			
子どもや同僚と共に育つ力	人間性豊かな保育者	様々な人や文化・芸術に触れて人間性や感性を磨いたり、地域の活動に積極的に参加しようとする	様々な体験をすることで、視野を広げたり、多様な考え方をしたりする	自らを高める様々な体験を積み重ね、豊かな人間性を身に付けるとともに、それらを園の組織や社会との関係の中で活かす			B 子どもや同僚と共に育つ保育者
	社会人・園の一員としての役割	園の組織について理解し、その一員としての自覚をもつ	各分掌のつながりを考えながら協働的に園務を遂行し、社会や園の組織の一員として責任をもって役割を果たす	園の取組を俯瞰的にとらえ、組織の人材を適材適所で活用したり、指導したりして、組織の活性化を図る			
	職場における同僚性と育ち合い	自分の考えを伝えたり、同僚の意見を聞いて理解しながら、連携して保育を進める	保育者の対話的な関係性をつくり、園としてのチーム力を高めるために、具体的な方法を提案したり工夫したりする	保育者一人一人のよさを生かしたチームをつくるために、個々の保育者の課題に応じた指導・助言をするとともに、人が育ち合う風土をつくり、ミドルリーダーを支える			
	自園の理念・方針の理解と実践	自園の教育・保育理念や教育目標を理解し、教育課程をもとに保育を進める	自園の教育・保育理念の特徴を深く理解し、教育目標を達成するための教育課程を編成し、園内での共有を図る	自園の教育・保育理念や教育目標、教育方針を明文化し、教育課程を保護者や社会にわかりやすく示す			
	子どもをまんなかにして自園の保育の質を高める	保育を評価するための様々なツールや方法を知る	評価のツールや方法を理解し、自園の課題に応じてそれらを使用し、保育の質の向上につなげる	保育の質向上のための評価を園全体で進めていくことのできる体制を作る			
	保育者の得意なこと・よさを自園の保育に活かす	自分の得意なことを保育に活かし、子どもたちにその魅力を伝える	自分の得意なことを磨き、それらを保育に活かすとともに、他の保育者に助言や指導をすることができる。新たな得意分野を開拓する	保育者一人一人の得意なことやよさを把握し、それらをさらに磨いたり園内で活かしたりできる環境づくりに努める			
幼児教育・保育理論を理解する力	幼児教育・保育の歴史や思想を知る	幼児教育・保育の歴史や思想について理解する	幼児教育・保育の歴史や思想について、自らの保育と照らし合わせながら理解を深める	幼児教育・保育の歴史や思想について、家庭に伝えるべきことを分かりやすく伝え、子育ての支援につなげる			C 幼児教育・保育理論
	日本の幼児教育・保育制度を知る	幼稚園・認定こども園・保育所・認可外保育施設の目的・制度を理解する	日本の幼児教育・保育制度の歴史の変遷や要領改訂の背景、意義等を理解する	日本の幼児教育・保育の制度やその背景について理解し、現代的課題に対する園としての役割を果たそうとする			
	幼児教育・保育を支える発達の理論を知る	発達の基礎理論を知り、乳幼児期の発達について理解する	乳幼児期から児童期の発達についても理解し、発達に即した保育を行う	0～18歳の発達について深く理解し、発達の連続性を意識した保育が園で行われるような環境づくりや指導・助言をする			
子どもを理解する力	子どもの育ちと経験の理解	子どもと向き合い、様々な記録のとり方を学びながら、子どもの思いや経験、育ちについて、丁寧に理解しようとする	記録のとり方を工夫し、子どもの発達や個性等をより多面的に理解し、子どもの育ちについて様々な方法で保護者と共有する	子ども理解から始まる教育・保育を実践するための組織的な園内体制をつくり、保育者の子どもを理解する力の向上を支援する			D 子ども理解
	特別な支援を必要とする子どもの教育	様々な障害についての基礎的な知識を身につけ、特別な支援を必要とする子どもを理解しようとする	特別な支援を必要とする子どもの特性を理解し、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮に努める	多様な子ども同士が育ち合うことができる環境を家庭や関係機関とも連携しながら整備し、計画的、組織的に対応するように努める			
	乳児の発達と保育	乳児保育の意義や乳児の発達過程、配慮すべきこと等について理解する	乳児の発達に即した保育をするための環境や保育者のかかわりについて理解し、実践する	乳児保育の環境を整備し、保護者や地域の子育ての支援をする			
保育を計画・実践し、評価・改善する力	教育課程の編成と全体的な計画及び指導計画の作成	要領や自園の教育課程・全体的な計画について理解し、それらを基に指導計画を作成する	自園の教育課程や全体的な計画をふまえて、乳幼児期の発達に即した指導計画を作成するとともに、それらのことに関して他の保育者に助言する	教育課程や全体的な計画、指導計画を小学校との接続も意識して編成・作成し、保護者や地域に分かりやすく説明することができる。子どもの育ちや園の状況等をふまえて、園内の行事を提示したり、見直したりする			E 保育の計画と実践・評価・改善
	環境の構成	環境を通じた教育・保育について理解し、子どもの姿や活動の展開を予想して環境の構成をする	子どもの実態と保育者の願い・ねらいを踏まえて環境を構成し、必要に応じて環境の再構成をする。人的環境としての保育者のあり方について深く理解し、他の保育者のモデルとなる	保育者同士が園の環境について話し合い改善につなげる場を設ける。園全体の保育環境(人的・物的環境・自然環境・文化的環境等)の充実に努める			
	子どもへの指導・援助	一人一人の子どもの思いや遊びの状況を理解し、必要な指導・援助をする	個と集団の育ちを意識しながら、一人一人に応じた適切な援助をしたり、他の保育者に対して具体的な助言をしたりする	保育者が子ども理解を基に、一人一人に応じた適切な援助ができるように保育者同士が学び合える機会をつくらせたり、保育者が安心して行動できる基盤づくりをしたりする			
	保育の振り返りと評価	自分の保育を振り返り、よかったところや改善すべきところに気付き、次に活かそうとする	幼児理解に基づいた評価や、PDCAサイクルの重要性について理解し、実践・共有する	評価を行うことの意義について理解し、園の保育の評価・改善を行い、社会に公表・発信する			
保護者や地域と連携したり支援したりする力	保護者・地域との連携	保護者と子どもについての情報交換をする中で、信頼関係を築こうとする。幼保小の連携・接続の意義について知り、子どもたちの資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する	保護者が相談しやすい雰囲気をつくり、保護者の思いを受容的に受け止めながら適切に助言できる。地域の専門機関の役割を理解し、連携する。小学校との交流や研修に参加し、子どもの発達や架け橋期のカリキュラムについて理解し、共有する	保護者や地域、小学校に対して、様々な機会や手段を通して情報発信に努める。状況に応じて、地域や関係機関と連携・協働しながら、組織として保護者を支援する体制を整える			F 子どもが育つ家庭や地域
	子育ての支援	子育ての支援の重要性を理解し、園を訪れる地域の保護者等に対して温かく接する	地域に開かれた園としての多様な役割について理解し、地域の保護者の子育てに関する思いを受け止めながら、必要な支援をする。特別なニーズをもつ家庭について理解する	地域に開かれた園として多様な役割を果たすことができるような体制を整える。預かり保育や特別なニーズをもつ家庭への支援を行う環境を整備する			
	社会資源	地域の人材や施設、自然、文化等について知る	地域の資源を活用して保育を豊かにする	地域との信頼関係を構築し、園内で地域の資源についての情報を共有しながら、それらを活用した特色ある保育を進める			